

特集 - 日本農業遺産 -

新たなステージへ

「南予かんきつ」の新たな可能性が始まる―



平成31年2月15日に日本農業遺産に認定された「愛媛・南予の柑橘農業システム」の凄さとは。
認定で評価されたポイントなどから、その凄さに迫ります。

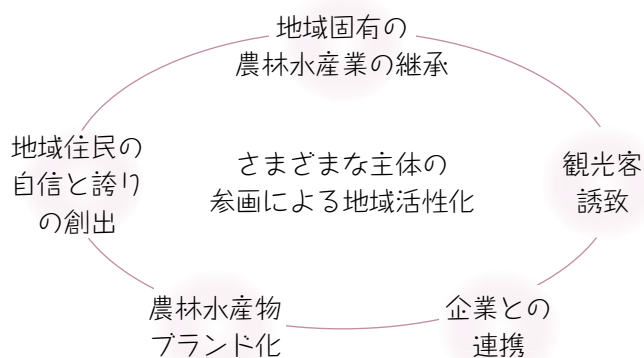
日本農業遺産って？

重要で伝統的な農林水産業を営む地域を農林水産大臣が認定します。県南予地域を含め、国内の15地域が認定されています（平成31年3月時点）。

【認定基準】

- ▶ 世界・国内的な重要性
- ▶ 歴史的重要性、現代的重要性
- ▶ 自然災害や生態系の変化に対する回復力
- ▶ さまざまな主体の参加
- ▶ 6次産業化の推進

認定によって期待される効果





ここがスゴイ！ 南予のかんきつ

全国的に人気を誇る南予のかんきつ。
私たちにとっては普段から側にあるので
何気ない存在になっているかもしれません。
今回、日本農業遺産で認められた多くの「スゴイ」。
みなさんはどれだけ知っていますか。



素晴らしい景観

段々畑がスゴイ！

立っているだけで精一杯の急傾斜。その中でも作業がしやすいように山を切り開いて作られた段々畑は、宇和海と合わせて壮大な景観を形成しています。また、段々畑の石垣は在来希少植物の格好の生育環境でもあり、生物多様性への可能性が期待されています。

太陽の恵みがスゴイ！

山頂から沿岸部にまで広がる園地の凄さは、景観の良さだけではありません。その地形により空から降り注ぐ太陽、段々畑の石垣に反射した太陽、海に反射した太陽が十分に当たることで、高品質なかんきつの生産にもつながっています。

生計を支える品種と共選

品種がスゴイ！

収穫量と品目数は全国屈指。また、どの品種も高品質であり、ジュースなどの加工品としても人気があります。また、吉田町にあるみかん研究所では、生産者とともに新たな品種開発に取り組んでいます。

共選がスゴイ！

選果と販売を共同で行うことで、質・量ともに安定して供給できる共選のシステムは、この地域にしかみられない固有のものです。

安定供給の実現により、南予地域のかんきつ農業システムの形成を支えてきた土台と言えます。



地域住民の連携の強さ

回復力がスゴイ！

台風に伴う塩害や昭和42年に起きた大干ばつなど、過去の気象災害において甚大な被害を受けましたが、農業用水施設などの整備により足腰の強い山地を形成しています。今回の平成30年7月豪雨による被害においても、地域が一体となって産地の復興に取り組んでいます。

果樹同志会がスゴイ！

果樹同志会は、南予地域で生まれ全国に広がりました。共選がおもに共同販売を担う組織に対して、果樹同志会は共同生産を担う組織です。

その年ごとの気候に適した栽培方法や新しい品種の栽培方法などの情報を会員内で共有することで、安定したかんきつの生産につなげています。



私の「誇り」

これまで続けてきたことが
認められた。

その自信と誇りを胸に、
今を担う農家がさらなる一步を
踏み出しました。

玉津地区果樹同志会の会長を務める宮本さん。玉津地区では、ほとんどの農家が果樹同志会に加入しています。

平成30年7月豪雨では、宮本さんの園地も被害を受け、植栽したばかりの苗木も流されてしまいました。園地を失い辛い状況の中で、日本農業遺産の認定といった明るい話題は、将来の励みになったと宮本さんは話します。

今回の災害によりたくさんの被害があったけれど、これまでの先代たちも同じように苦しい状況があったはず。それを幾度となく乗り越え園

幾度となく災害を乗り越えてきた園地が
守り続ける覚悟を与えてくれた！。



玉津地区果樹同志会会長 宮本さん

地を守り、残してくれたからこそ今がある。そして、これを絶対になくすわけにはいかない。自分たちは何としても負けられない！。そう話す姿がとても印象に残りました。

「日本農業遺産の認定は、先代たちが守り続けてきたものが認められたということ。そして、自分たちはその守り続けられてきた園地を任されているという誇りを胸に、災害という苦しい状況を乗り越え、未来につないでいかなければならないという覚悟も与えてくれた」と決意を話してくれました。

南予はかんきつの宝庫 どんな品種でも栽培できる。

J A えひめ南ブラッドオレンジ栽培部会長を務める児玉さんは、宇和島でブラッドオレンジの栽培が始まった平成16年の当初から栽培に関わっています。

今となつては宇和島が全国一の生産量を誇るブラッドオレンジ。温暖化の影響により高品質な栽培が可能になったと言われていましたが、当初はなかなか生産量が伸びませんでした。しかし、試行錯誤を重ね、安定した栽培に成功します。今では多くの農家が栽培を担い、首都圏のシェフからも人気を誇るものになりました。

児玉さんの誇りは、品種の多さ。

日本農業遺産の認定でもこの品種の多さは高く評価されました。急傾斜で水はけが良く、太陽の光が十分に得られる南予ならではの地形はどの種のかんきつでも栽培ができると話します。「成功した今だからこそ言えるけれど」と冗談交じりに話す児玉さんですが、その表情からはどこか確たる自信を感じました。

現状に満足することなく、新たな品種導入や改良に取り組み続ける。先代から続いているこの取り組みは、農家の誇りとなり、今後も南予のかんきつを支えます。



J A えひめ南ブラッドオレンジ栽培部
会長 児玉さん



今後に期待！

今回の日本農業遺産の認定は、平成30年7月豪雨により被害を受けたかんきつ農家の背中を大きく押してくれました。

過去にも、昭和42年に起きた大干ばつにより甚大な被害を受けた南予のかんきつ。しかしその後、干ばつに備えるために農業用水施設が整備され、安定的な水源の確保が可能となり南予のかんきつが勢いづくきっかけとなりました。

今回の災害においても、ピンチをチャンスに変えて、より強いかんきつ産地への復興を目指していく。そのためには、先祖代々つないできた営みが評価されたことは、今を担う農家にとって大きな支えとなり、今後の南予のかんきつのさらなる飛躍に期待が膨らみます。



J A えひめ南
黒田代表理事組合長